

令和3年度 自己評価および学校関係者評価書

令和4年3月25日
函館市立深堀小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の力で考え、力を合わせて やりとげよう
自分から いっしょに 最後まで

2 本年度の取組の重点

①社会とつながる教育課程 ②居場所のある学校(学級) ③心身の健康を育み、命を守る環境整備・危機管理
④主体的に考え、学びの意義や楽しさを実感できる授業 ⑤多様なニーズに対応する特別支援教育
⑥効果的な校務運営と業務改善の推進 ⑦地域とともにある学校づくりの推進

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
①社会とつながる教育課程	「資質・能力の三つの柱」の調和のとれた「社会に開かれた教育課程」の編成と推進	b	深堀小の地域性に合った「社会に開かれた教育課程」の編成と推進を図る。	A	A	
	全ての子供の学びを保障する、教育内容の質の向上に向けたカリキュラム・マネジメントの充実・強化	b	カリキュラム・マネジメント教育内容の質の向上を図っていく。	B	B	
②居場所のある学校(学級)	支持的な雰囲気の中で、自信をもって学習・生活できる学年学級経営の推進	b	共通理解を図り、全教職員で子どもを見守り、どの子ども安心して通える学級・学校づくりを進める。	B	B	職員室をオープンな居心地のよい場所にする。子どもたちからの反応や感動を伝え合う場所にする。
	いじめ・不登校への迅速で組織的な対応の徹底	a	全職員による共通理解・共通行動により、素早く適切な対応をしていく。	B	B	子供達だけでなく、教師に対する態度や言葉遣いの改善が必要である。
③心身の健康を育み、命を守る環境整備・危機管理	健康な心身を育む体力作りの推進と生活習慣の確立	a	縄跳び週間の実施、毎日の健康チェックシートを実施。	A	B	回数時間など数値化できるトレーニングを毎日のルーティーンにする。
	安心して楽しく通える魅力ある環境の整備	b	朝、帰りの玄関前駐車場が危険な状況である。複数の職員により事故を防いでいきたい。	B	B	
④主体的に考え、学びの意義や楽しさを実感できる授業	他者とかかわりながら、学びを生かし、豊かに表現する力の育成	b	コロナ禍で活動に制限のある状況ではあるが、できる活動を行い、資質・能力の育成に努めたい。	B	A	名作名文の暗唱なども学級での習慣にしたい。意見発表スピーチを恒常的な取り組みにする。
	ICTの活用、学校図書館の充実など授業を支える環境の整備	a	今後もChromebookの活用、学校図書館の効果的な利用を心掛けていきたい。	A	A	
⑤多様なニーズに対応する特別支援教育	専門性の向上と、機動的な校内支援体制の充実	b	特別支援コーディネーターを中心とした、校内支援体制を充実させていく。	A	B	
	個別の指導計画、支援計画の効果的な活用	b	個別の指導計画、支援計画の活用を促進していきたい。	A	B	
⑥効果的な校務運営と業務改善の推進	全職員の共通認識に基づく協働体制と連携による校務分掌運営	b	共通理解・共通行動を心掛け、ICTの活用により連携を強化する。	A	A	
	業務改善による子供と向き合う時間と質の高い教育活動の創出	b	ICTの活用による分掌組織内の業務改善を図る。	B	B	
⑦地域とともにある学校づくりの推進	情報の積極的な発信・収集による教育活動への理解促進と信頼関係の構築	b	家庭・地域・外部機関への双方向の情報交流に努める。	B	B	
	コミュニティ・スクールの取組など、家庭・地域・外部機関との連携・協力による教育活動の充実	b	CS、小中連携等、家庭・地域・外部機関との連携・協力を充実させる。	B	B	Zoom等を使い、テーマを決め、参加者を募って地域懇談会を持つ。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。